

童謡遊戯の振について

戸 倉 ハ ル

童謡遊戯は、近頃遽かに盛になつて學校を初めとして家庭や社會教育の中にまで取り入れられるやうになつてまゐりました。これは教育新思潮の

もたらした影響であると思はれますが、兎に角兒童の教育の上から見て誠に喜ばしい現象と存じます。

この際これをどのやうに考案したらよいか、またどう取扱つたらよいかと工夫を凝らすことは、私どもの様に體育に關つてゐる者の當然の務ではないかと思はれます。

これについて、人様いろ／＼の御研究がございませうが、私は、今まで貧弱な研究ではありまじ、たが、機會ある毎に發表もしてまゐりました關係

上、振について、少しばかり述べさせていたゞきます。

素より經驗も乏しいし、學問も浅い私のことですから、さう大した發表がある筈はございませぬ。たゞ斯の道の研究上、多少の御參考にてもなりませれば幸と存じます。

童謡遊戯の振附に次の三つがあると思ひます。

- (一) 歌の詞のまゝに表はす法
- (二) 歌から來る感じを表はす法
- (三) 歌にある人物の性格を表はす法

以下其の各々について簡單に説明いたします。

(一)を更に直接の表現と、間接の表現との二つに分けることが出來ます。

直接の表現と申しますのは、歌の意味をなすべく具體的に表はす方法で、最も簡單なものであります。例へば「花が咲く」といふ場合に、両手で花の形をこしらへ、花の咲いてゐる様子を表すといふたぐひであります。

次に間接の表現と申しますのは、歌の内容を間接に表はす方法で、前よりは少し六つかしく、高尚になります。例へば、前の「花が咲く」といふ場合に、片手を頭上にかざし、咲いてゐる花を遙かに眺める様をするといふ類であります。

序に右の兩者を比較して見ますと、

直接の表現は、表し方が頗る簡單で、しかも理解し易く、方法も容易であるから幼學年の兒童にはよく適しますが、しかし、動作があまり簡單過ぎて、表現の範圍が狭められます。例へば、「鳥が啼く」といふ場合にまさか、口を開いて、鳥の啼く眞似をするわけにもいかず、自然と、行き詰つ

てくるのであります。

間接の表現は、前者に比べると動作が複雑で、内容も理解し難いから、幼稚の兒童には適しないが、動作が婉曲で、上品で、面白味が深うございます。例へば前の「鳥が啼く。」にしても、両手を側にあげて、これを上下に軽く振り鳥の飛ぶ様をなし、次に體を徐ろに斜前に傾けて、鳥の啼く音を靜かに聞くといふやうな方法であります。

(一)は、歌から來る感じを其のまゝ、卒直に表はす方法で、動作の難易巧拙といふよりは、むしろ感情表現に重きを置かなければなりません。従つて、幼學年の兒童には氣分が出しにくくて稍々六つかし過ぎます。例へば、廣瀬中佐の歌で、「旅順港外恨ぞ深し。」といふ場合に、何等動作することなしに、唯無言の中に殘念でたまらぬといふ氣持が充分溢れてゐなくてはなりません。

(二)は歌に出てくる人物の人がらを表はすもの

で、最も六つかしくなります。しかし練習を積むにつれて、だん／＼藝術味が現はれてまゐります。例へば「牛若丸」といふところで、牛若丸と辨慶との人がらを現はし、時の移り變るにつれて次第に二人の人がらの差異を個別的に明かに現はしていくのであります。それにはやる人が歌に出てくる人物に乗り移らなければうまく出来るものではありません。われ／＼が芝居を見て、よく泣かされますのはこの表現がうまくいつてゐるからであります。要するにこの表現も終にはこゝまで徹底しなければなりません。

以上甚だ簡單ではありましたが、振のつけ方について述べさせていたゞきました。これ等を實地に適用するについては餘程研究を要することゝ思はれます。どうか今後皆さんと共に研究して、本當によい子供のものにしたたいと、ひたすら祈つてあります。(終)

柶のぼり

口繪に示す柶のぼりは東京女子高等師範學校附属幼稚園指導、フレーベル館考案製作のものである。幼稚園時代の幼児が面白く遊んでゐる間に各種の筋肉を悉く働かすことが出来、幼児の程度に適應した使用が自然に行はれるのであるから決して危険がない。しかも一時に多數の幼児が狭い場所て比較的靜かに面白い運動が出来る最新の運動具である。室内にても室外にても自由に移動が出来、之を移動するには幼児の力で出来るものである。移動し得るが幼児の力で倒れない。多數の幼児が一方に登つたからとて倒れる心配は毛頭ない。至極幼児の好む面白い運動用具である。